

第11号  
平成19年2月25日  
発行  
「市民活動情報紙  
なると」編集委員会

# 市民活動 情報紙なると

鳴門市ボランティア  
連絡協議会  
☎685-7170  
鳴門市市民活動  
支援センター  
☎684-0655

第6回とくしまNPOフォーラム・第5回鳴門市市民活動交流研修会  
開催される



フリップ・ディスカッション



全体会

「人を活かす! 地域を活かす! 未来へ活かす!」をテーマとして、「第6回とくしまNPOフォーラム・第5回鳴門市市民活動交流研修会」が、実行委員会主催により、2月10・11日の2日間にわたって鳴門教育大学で開催されました。

《1日目》 オープニングセレモニーは、NPO法人鳴門「第九」を歌う会の皆さんとフォーラム参加者が一体となった「歓喜の歌」の大合唱で幕があき、猪子幸実実行委員長と来賓の方々のあいさつがありました。

続いて、せんだい・みやぎNPOセンター加藤哲夫代表の、「地域の自立と協働のありかた」と題した基調講演がありました。加藤代表は、「地域とは人の集まりであり、一人ひとりが自分を『ひらく』ことによってつながりができ、市民活動の発展につながっていく。地域が自立するという意識改革が必要であり、皆が協力して地域社会の問題に取り組むことが重要である。」と話されました。

次のフリップ・ディスカッションは、NPO法人元気やまかわネットワーク宮本晴義事務局長の進行により、7分科会の代表者がそれぞれの活動の経験を話し、「人を活かす!」「地域を活かす!」「未来へ活かす!」についてキーワードをフリップに書き、それについての思いを説明し会場の参加者とともに考えました。

《2日目》 分野・領域ごとに、7分科会が開かれ、各分科会とも多数の参加者がありました。それぞれの分科会では、活動実績を踏まえた貴重な事例発表をもとに、熱のこもった意見交換があり、参加者の皆さんは有意義な時間を共有しました。

- ・第1分科会「地域の運営・人と組織」
- ・第2分科会「未来の子どもたちのために」
- ・第3分科会「魅せる『花街道・地域づくり』へ」
- ・第4分科会「チャレンジドの社会参加と就業に向けて」
- ・第5分科会（とびだす分科会 会場 鳴門公民館）  
「生活環境、地域環境の改善は一人ひとりの力で」
- ・第6分科会「鳴門でとことんバトル」
- ・第7分科会「広がっていますか? “協働の輪”」

最後の全体会では、加藤代表の総括や、会場から「鳴門らしさの出たすばらしいフォーラムでした。」との発言があり、今後の市民活動につながる大きな成果をあげて、500名を越す参加者による2日間のプログラムを終了しました。

## 鳴門「第九」を歌う会の歩み

NPO 法人鳴門「第九」を歌う会 事務局 浅野 司郎

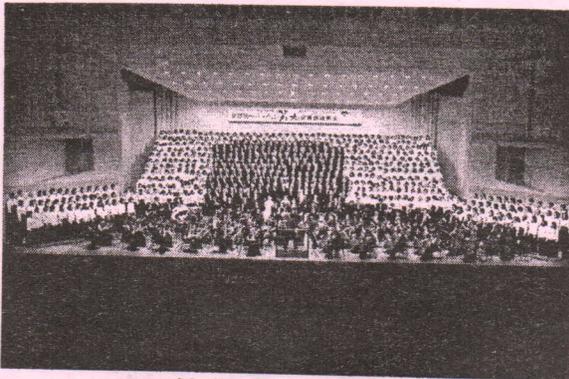
25年前の1982年(昭和57年)5月、文化の殿堂として、1500人収容の大ホールを持つ、鳴門市文化会館が落成し、記念事業として「第九」の演奏会が行われた。鳴門市「第九」を歌う会の誕生である。

鳴門で、なぜベートーヴェンの「第九」演奏会なのか。

答えは、90年前の第一次世界大戦中の板東俘虜収容所にある。ドイツ兵捕虜が第九演奏会をした、これが日本における第九初演であったことに由来する。

すべての市民が、最高の音楽芸術ベートーヴェンの交響曲第九番「歓喜の歌」を合唱し、文化の発信地、鳴門市文化会館の誕生を喜び合いたいとの願いから開催された。

以来、25年間、鳴門市の重要な行事の一つとして定着してきている。



第九演奏会

鳴門市「第九」を歌う会の長い歩みのなかで、1999年(平成11年)、鳴門「第九」友の会が発足、第九演奏会のボランティア活動が積極的に行われた。

さらに、2003年(平成15年)2月、5年間の活動を基礎として、友の会を発展解消、NPO法人鳴門「第九」を歌う会が誕生した。

鳴門「第九」を歌う会の法人化を機に、第九演奏会の事業はもちろん、市の音楽活動や国際交流、青少年の健全育成に活動領域を広げ、現在に至っている。

全国の第九合唱団との交流は、1989年(平成元年)全日本「第九を歌う会」連合会の結成とともに、北は北海道から南は九州鹿児島まで、「第九初演の地『鳴門』で歌おう」を合言葉に、ますますその輪が広がっている。

2007年(平成19年)6月には、第26回第九演奏会を行うとともに、10月に徳島県第22回国民文化祭の行事の一環として、鳴門市文化会館において「第九フェスティバル」が開催される。全国からの参加希望者も300近く、県内の徳島、阿南、池田、鳴門の各第九合唱団が全国の人々と一緒に、鳴門で「歓喜の大合唱を！」と、期待で胸が膨らむ。

信頼されるNPOの七つの条件  
(その六)

事業報告・会計報告などの情報を積極的に公開していること

会員や寄付などいろいろな形でサポートしている人たちからだけでなくひろく社会の人々に理解してもらい、活動の意義に共感し支持・参加してもらうためには、何を目的にどのような活動を行っているのか、その成果はどういうものだったのか、という事業の報告と、収支や資産等の会計の報告が大切です。

そして、ホームページや機関紙などの自らの発信ツールを用いて、組織情報を含めそれらを解りやすく積極的に公開することが求められます。NPO法人は、年度終了後3ヶ月以内に所轄庁に事業報告書や決算書を提出し、一般の閲覧に供することが義務づけられていますが、この最低限度の法的義務にとどまらず、より積極的に情報を公開することが望まれます。

(民間NPO支援センター・将来を展望する会)

## 施設の特徴を生かしたボランティア活動

鳴門授産センター 支援員 西谷 学

鳴門授産センターは大麻の緑豊かな山間部にある、入所者50名の障害者授産施設です。企業からの委託作業と、藍染め、花苗、しいたけ、すす虫のパック販売などの自主生産をしております。

ボランティア活動として、地域のリサイクルグループの収集物の搬出の手伝い、施設周辺の市道と鳴門の市街地の草刈り、花苗の植え付けなどを行っています。施設での作業・行事との絡みもあり、なかなか定期的に行うことが難しいですが、利用者の方と一緒に活動をしています。

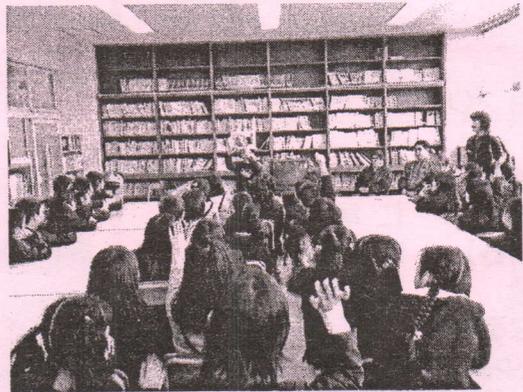
また、施設の作業と連携して昆虫教室をしています。これは施設が育てたすす虫やかぶと虫の幼虫を使って、子どもたちに飼育方や生態、そして命の大切さを教える、ということを目指して行っています。

今年度も、鳴門市と徳島市の小学校・児童館および神山森林公園で合計7回行いました。昆虫好きな子どもが多く、目をきらきらと輝かせながら話を聞いてくれることが多いです。

「来年もまたやってよ。」という子ども達の声は何よりの励みになります。

昆虫教室は、夏はすす虫、冬はかぶと虫の幼虫と定期的に季節が限られ、また近隣市町村の範囲とはなりますが、依頼を受けて実施しておりますので希望があればお問い合わせ下さい。

微力ながら施設の特色を生かしたボランティア活動を、今後とも続けていきたいと思っております



地元の小学校での昆虫教室

## 第33回北灘まつり

北灘地区自治振興会

北灘まつりも38回を迎え、今年度も10月9日芸能の部、10月28・29日展示の部、10月29日お祭り広場と、盛大に開催されました。

芸能の部は、カラオケ・大正琴・踊り等があり、最後のくじ引きに至るまで北灘公民館の会場は超満員の盛況でした。

展示の部は、同じく公民館を会場に、北灘東西小学校児童や北灘中学校生徒の作品をはじめ、郵便局の出展・生け花・彫刻・ちぎり絵・絵画等力作が展示されました。

お祭り広場は、大浦漁港ふれあい公園で開催されました。

漁協による鮮魚の販売は、朝早くから大勢のお客が詰めかけ大盛況でした。また、大正琴に合わせた餅つき、婦人会によるたこ焼き・唐揚げ・フライドポテトの模擬店、北灘中学生の写真コンクール・海に向かって大声で叫ぶ等のユニークな催しや、PTAのバザー



まつりを盛り上げる獅子舞

も盛況でした。

中でも櫛木と折野の獅子舞、葛城神社の御練り、大正琴の演奏、北灘東小学校全児童による北灘ソーランや婦人会の踊りの熱演に、取り囲んだ見物客から大きな拍手がわき上がりました。

北灘町の各種団体や町民あがての協力を得て、町内外からたくさん見物客も訪れ、地域の活性化と親睦、芸能、文化の継承等所期の目的を十分に果たし、盛会裏に終ることができました。

## 新法人紹介

平成18年12月、鳴門市内に新しい  
NPO法人が誕生しました。  
よろしくお願いします。

### ジョブOBネットワーク

【事務所】 鳴門市大津町吉永265番地14

【理事長】 仁尾 國男

【分野】 職業能力開発、  
雇用機会の拡充の支援

【主な事業】

- ・中高年齢退職者と企業との  
マッチング事業
- ・中高年齢退職者の経験、スキル、  
ノウハウを活用した事業

## 行事のお知らせ

《鳴門市賀川豊彦記念館特別企画展》

NPO法人賀川豊彦記念・鳴門友愛会

【とき】 2月4日(日)～4月8日(日)

9:00～17:00

【ところ】 賀川豊彦記念館 2階第3展示室

【内容】 賀川豊彦と子どもの教育

【入館料】 大人200円 小人100円

【休館日】 第4月曜日

※ 特別企画展示説明会

【とき】 3月4日(日)

13:30～15:00

【解説】 岡田 健一さん

(徳島大学工学部助教授)

【問合せ先】 ☎689-5050

《第1回源氏物語講座》

鳴門市読書振興協議会

【とき】 4月18日(水)

13:30～15:30

【ところ】 鳴門市立図書館 2階視聴覚室

【講師】 森 基子さん

【内容】 原文に親しむ 『胡蝶の巻』

【対象】 一般

【資料代】 100円

【問合せ先】 鳴門市立図書館

☎685-0255

## 助成金の紹介

平成19年度

「子育て家庭支援団体に対する助成活動」

◇助成対象となる団体等

就学前の子ども保護者等(妊婦等を含む。)  
に対する支援活動を行う民間非営利のボラ  
ンティアグループ・団体、NPO法人等。

◇助成対象となる活動

日本国内において、団体等が行う就学前の子  
どもの保護者等(妊婦等を含む)に対する  
支援活動(従来からの継続活動でも新規活動  
でもよい)

◎対象となる活動の例

- ・学習会活動(育児勉強会の開催等)
- ・相談活動(子育て相談・カウンセリング等)
- ・情報提供活動(子育て情報紙の発行等)
- ・交流活動(親子の集い・情報交換の場提供等)
- ・支援者養成活動 等

◇助成金額

1団体当り(上限額)25万円

助成金総額(最大)1,400万円

◇助成対象期間

平成19年8月～平成20年3月に実施  
する活動

◇申込受付期間

平成19年2月13日～3月23日

(当日消印有効)

◇問合せ先

社団法人 生命保険協会

「子育て家庭支援団体に対する助成活動」

事務局 ☎03-3286-2643

昨年の8月から半年にわたり、市内の  
市民活動団体の皆さんが、全力投球で  
取り組んできた「第6回とくしまNPO  
フォーラム・第5回鳴門市市民活動交流  
研修会」が、大成功のうちにおわりました。  
たくさんの方々とは素晴らしい時間を  
過ごすことができました。

ありがとうございました。

(編集委員会)

